

①上位の政策名	政策目標5 優れた成果を創出する研究開発環境を構築するシステム改革	
②施策名	施策目標5-3 科学技術振興のための基盤の整備	
③主管課 及び関係課 (課長名)	(主管課) 研究振興局研究環境・産業連携課(課長:佐野 太) (関係課) 研究振興局情報課(課長:勝野頼彦) / 基礎基盤研究課(課長:大竹暁) / ライフサイエンス課(課長:松尾泰樹) 大臣官房文教施設企画部計画課(課長:岩立忠夫)	
④基本目標 及び達成目標 ア= 想定した以上に達成 イ= 想定どおり達成 ウ= 一定の成果が上が っているが、一部 については想定ど おり達成できな かった エ= 想定どおりには達 成できなかった (ア= 想定した以上に順 調に進捗 イ= 概ね順調に進捗 ウ= 進捗にやや遅れが 見られる エ= 想定したとおりに は進捗していない)	<p>基本目標5-3 (基準年度:13年度 達成年度:22年度) 独創的・先端的な研究開発を進めるため、施設整備はもとより、知的 基盤(①研究用材料、②計量標準、③計測方法・機器等、④データベ ース)研究情報基盤などの研究開発基盤の整備を図る。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ア=以下の5つの達成目標の達成度合いが、想定した以上に達成し ている(アである)か、想定どおり達成している(イである) 場合 イ=以下の5つの達成目標の達成度合い全てが、想定どおり達成し ている(イである)場合 ウ=以下の5つの達成目標の達成度合いの内、一部については想定 どおり達成できなかった(ウであった)か、想定どおり達成で きなかった(エであった)ものが1つでもある場合 エ=以下の5つの達成目標の達成度合い全てが、想定どおり達成で きなかった(エであった)場合</p> <hr/> <p>達成目標5-3-1 (基準年度:13年度 達成年度:22年度) 2010年を目途に、知的基盤整備計画(科学技術・学術審議会阿部 前会長より遠山大臣に平成13年8月30日に答申)に記載された重点 的に整備する知的基盤(①研究用材料(微生物等の生物遺伝資源等)、 ②計量標準、③計測方法・機器等、④データベース)の整備について、 ①指標に示されているような整備目標を達成する。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ア=イを満たした上で、11の指標の内、平成22年度の目標に対 し上回っている指標が1以上ある場合。 イ=11の指標の内、平成17年度の想定基準に対し上回っている 指標が11(全て)の場合。 ウ=11の指標の内、平成17年度の想定基準に対し上回っている 指標が6~10の場合。 エ=11の指標の内、平成17年度の想定基準に対し上回っている 指標が5以下の場合。 ※平成17年度は10か年計画の5年目(初年度から4年経過)に当 たるため、研究用材料、計量標準に係る指標については整備目標に対 する想定基準を全体計画の44.4%とする。</p> <hr/> <p>達成目標5-3-2 (基準年度:16年度 達成年度:21年度) 多様な物質・材料の構造解析をはじめとして、従来の光源では達成で きない未踏の科学技術領域の開拓に寄与する施設である大型放射光施設 (SPring-8:Super Photon ring 8 GeVの略称)の共用を促進し、さらに 優れた研究成果を社会に還元するため、本格利用期にあたり施設の高度 化や活用方策を進め、研究成果の質的向上及び産業利用の拡大を図る。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】 ア=イを満たした上で、利用者数が対前年度比で121%以上か、 または産業利用が20%以上 イ=利用者数が対前年度比で100%以上で、かつ産業利用が15 %以上 ウ=利用者数が対前年度比で100%以上か、または産業利用が 15%以上 エ=利用者数が対前年度比で100%未満で、かつ産業利用が15 %未満</p> <hr/> <p>達成目標5-3-3 (再掲) (基準年度:13年度 達成年度:19年度) 先端的研究機関を最速10Gbpsの回線で接続するスーパー SINET のノ ード(接続拠点)数を平成15年度までに28機関において整備し、さら に順次拡充して、観測実験・シミュレーション等で大容量のデータを 扱い、超高速・広帯域のネットワークを必要とする高エネルギー・核融 合科学をはじめとする先端分野の研究を一層推進する。</p> <p>【達成度合い(進捗状況)の判断基準】</p>	<p>達成度合い又は 進捗状況</p> <p>一定の成果が上がっ ているが、一部につ いては想定どおり達 成できなかった</p> <p>概ね順調に進捗</p> <p>想定した以上に達成</p> <p>概ね順調に進捗</p>

	<p>ア＝計画以上に進捗している。 ・スーパー SINET のノード（接続拠点）数の前年度比が120%以上の場合。 イ＝計画通りに進捗している。 ・スーパー SINET のノード（接続拠点）数の前年度比が100%以上120%未満の場合。 ウ＝計画より若干遅れている。 ・スーパー SINET のノード（接続拠点）数の前年度比が80%以上100%未満の場合。 エ＝計画より大幅に遅れている。 ・スーパー SINET のノード（接続拠点）数の前年度比が80%未満の場合。</p>	
	<p>達成目標5-3-4（基準年度：16年度 達成年度：21年度） 先端研究施設の幅広い利用者による活用（共用）により優れた研究開発成果が創出されることを促すため、代表的な先端研究施設において、基準年度より高い産業利用率を確保する。</p> <p>【達成度合い（進捗状況）の判断基準】 ア＝イを満たした上で何れかの施設の産業利用が基準年度の2倍以上 イ＝全ての施設の産業利用が基準年度の1.5倍以上 ウ＝何れかの施設の産業利用が基準年度以上1.5倍未満 エ＝何れかの施設の産業利用が基準年度と同じかそれ未満</p>	<p>想定した以上に達成</p>
	<p>達成目標5-3-5（再掲） （基準年度：13年度 達成年度：17年度） 国立大学等施設緊急整備5か年計画（以下「5か年計画」という。）に基づき、平成17年度までに約600万㎡の国立大学等の施設整備を重点的・計画的に行う。（5か年計画の整備目標、大学院施設の狭隘解消等：122万㎡、卓越した研究拠点等：37万㎡、先端医療に対応した大学附属病院：50万㎡、老朽化した施設の改善：388万㎡）</p> <p>【達成度合い（進捗状況）の判断基準】 ア＝整備対象別の整備目標に対する達成度合いが、当初想定していた水準を20%以上上回っている場合 イ＝整備対象別の整備目標に対する達成度合いが、当初想定していた通りの水準であった場合 ウ＝整備対象別の整備目標に対する達成度合いのうち、一部について、当初想定していた水準に達しなかった場合 エ＝整備対象別の整備目標に対する達成度合いが、当初想定した水準に達しなかった場合</p>	<p>一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった</p>
<p>⑤ 現状の分析と今後の課題</p> <p>各達成目標の達成度合い又は進捗状況（達成年度が到来した達成目標については総括）</p>	<p>達成目標5-3-1 ①研究用材料（生物遺伝資源等）、②計量標準については、全ての指標について平成17年度の想定基準を上回っており、順調に整備が進められている。 ③計測方法・機器等については、平成16年度より先端計測分析技術・機器開発事業を実施しており、各研究開発課題が進捗していることから、施策の進み具合としては概ね順調に進捗している。なお、各研究開発課題は平成20年度頃から順次終了するものが現れ、開発された先端計測分析機器のプロトタイプが研究者の利用に供される予定である。 ④データベースについては達成度合いは、個々のデータベースの特性に応じた評価が必要である。ゲノム配列等のデータベースへの年間登録数については、全国の研究者の塩基配列の解析状況に依存するものであり、登録数の増加が見られることから概ね順調に進捗している。なお、年間登録数は、今後、最新の解析技術の開発・導入等により順次増えることが予想される。タンパク質構造の解析データに関するデータベースについては、タンパク3000プロジェクトの進捗に依存するものであり、プロジェクトの終盤にあたって順調にデータ数が増えており、施策の進み自体としては概ね順調に進捗している。 以上より、①研究用材料及び②計量標準については想定基準を上回り、③計測方法・機器等及び④データベースについては施策等が進捗していることから、概ね順調に進捗している。</p> <p>達成目標5-3-2 SPring-8の整備については、利用者数の拡大を目標に、その多様なニーズに対応すべく、SPring-8の高度化及びビームライン等の施設整備を実施してきた。平成17年度は、前年度の台風被害の影響もあり、前年度と比して利用者数が40%以上増加している。 また、電池寿命の劣化原因の解明や有用なタンパク構造の解析などの研究成果について、平成13～17年度の5か年で、ネイチャー・サイエンスに32件の論文が掲載されるなど、世界的に高く評価される研究成果を挙げており、研究成果については今後一層の量的・質的拡大が期待されることである。 一方、産業界の利用については、全実施課題数に占める割合が着実に増加し、達成の判断基準である15%を超え22.2%となった。今後とも新規利用者の更なる拡大を図っていることである。 以上より、平成16年度に比べ、利用及び産業利用の拡大については想定した以上に目標を達成している。さらに、研究成果の質的向上や産業利用・新規利用者の拡大などを図ることが、平成18年度以降の課題となる。</p> <p>達成目標5-3-3 スーパー SINET のノード（接続拠点）を平成17年度中に更に3機関（合計33機関）整備しており、前年比が110%であることから、概ね順調に進捗している。</p>	

達成目標5-3-4
SPring-8及び地球シミュレータにおける産業利用の割合はともに基準年度の1.5倍以上であり、地球シミュレータについては、2倍を超えたことから、想定した以上に達成されている。

達成目標5-3-5
【平成17年度の達成度合い】
平成17年度の達成目標の達成については、指標を踏まえ分析を行った結果、全体計画の70.5%に達している。整備対象別に見ると、5か年計画で優先的目標とした「大学院施設の狭隘解消等」(99.6%)、「卓越した研究拠点等」(91.2%)、「先端医療に対応した大学附属病院」(113.0%)については、想定どおり達成している。一方、「老朽化した施設の改善」(53.8%)については、当初設定した整備目標を下回ってはいるものの、目標の過半を達成していることから一定程度の整備は推進された。

【達成目標期間全体の総括】
全体計画の約7割を達成した。「老朽化した施設の改善」については目標を下回ったが、5か年計画で優先的目標とした「大学院施設の狭隘解消等」、「卓越した研究拠点等」、「先端医療に対応した大学附属病院」については想定どおり達成されており、大学等の教育研究基盤の整備・充実については一定程度推進された。
「老朽化した施設の改善」が目標を下回った理由は、総合科学技術会議において示された資源配分方針に基づき、教育研究成果の早期発現を目指すことはもとより、改善整備を行う際の移行先としても使用できるよう、「大学院施設の狭隘解消等」及び「卓越した研究拠点等」に係る施設整備を優先的に推進してきたためである。

施策目標(基本目標)の達成度合い又は進捗状況

5つの達成目標の達成度合いの内、一部については想定どおり達成できなかった(ウであった)ものが1つ存在することから、施策目標(基本目標)の達成度合いは一定の成果は上がっているが、一部については想定どおりには達成できなかった。

今後の課題(達成目標等の追加・修正及びその理由を含む)

達成目標5-3-1
研究用材料(生物遺伝資源等)は順調に整備されており、ナショナルバイオリソースプロジェクトは有効な政策手段として評価される。平成18年度の事業終了後も、2010年の達成目標に向け、引き続きバイオリソースの整備を進めることが必要である。
計測方法・機器等については、その開発・整備を中長期的な観点から進めるため、先端計測分析技術・機器開発事業の制度改善を行いつつ、更に強化していく必要がある。

達成目標5-3-2
大型放射光施設(SPring-8)利用関連
・大型放射光施設(SPring-8)は、世界最高性能の放射光施設であり、産官学の研究者による幅広い利用により、優れた研究成果が期待されることから、整備・活用を進めることが必要。産業界による施設の利用は、トライアルユース制度(平成15年度～17年度)やコーディネーターの増員等の支援策により着実に増加している。さらに、新規利用者の更なる拡大も図るべきであることから、戦略活用プログラムの推進や平成17年度からメディカルバイオロジー分野におけるトライアルユース制度を開始するなど、多様化する利用ニーズに応じた利用制度や支援体制の構築・整備を図るとともに、特別な知識や技術が無い新規利用者でも容易に測定データを取得できるような利用実験技術の開発を進めていくことが必要となる。

達成目標5-3-3
これまで、研究が概ね順調に進捗していることから、平成18年度以降も学術情報ネットワーク(SINET/スーパーSINET)の整備を推進していく方針である。

達成目標5-3-4
政策手段(先端大型研究施設戦略活用プログラム)の対象であるSPring-8及び地球シミュレータについて、順調に産業利用が拡大しており、有効な政策手段として評価される。今後は、対象を他の先端研究施設にも広げ、産業利用を拡大していくことが課題である。

達成目標5-3-5
「老朽化した施設の改善」については、目標を下回り、5か年計画策定後の経年による老朽改善需要とあまって、老朽施設は増加した。また、5か年計画策定後に生じた新たな教育研究ニーズによる施設の狭隘化への対応が必要である。このため、今後とも、老朽化対策を中心として施設の整備を計画的・重点的に推進を図っていく必要がある。

評価結果の18年度以降の政策への反映方針

達成目標5-3-1
研究用材料(生物遺伝資源)については、国として戦略的に整備する必要のあるものについて、体系的な収集、開発、保存を推進する。(平成19年度概算要求予定)
先端計測分析技術・機器開発事業については、ユーザーを取り込んだ開発体制を強化する等の改善を図りつつ、更なる推進を図る。(平成19年度概算要求予定)
以上を踏まえつつ、知的基盤整備計画を見直し、2010年に世界最高水準を目指して重点整備を進める。

達成目標5-3-2
○大型放射光施設(SPring-8)利用関連
・SPring-8が、より優れた、より多くの成果を上げる「本格利用期」に対応した施設となるべく、平成18年度においては、戦略活用プログラムによる産業利用の拡大、本格的利用期に適した大型放射光施設(SPring-8)の運営体制の構築に関して国際的視点から評価を仰ぐ国際諮問委員会の開催等に係る経費を措置したところである。
今後は、研究成果の量的・質的拡大や産業利用及び新規利用者の拡大等を図るため高度利用実験技術の開発並びにトライアルユース制度の充実等の施設の活用方策や施設・設備の整備を一層推進する(平成19年度概算要求予定)。

達成目標 5-3-3
達成目標を当初の目的どおり達成するために、平成 17 年度に引き続き学術情報ネットワーク (SINET/スーパー SINET) の整備を着実に推進する。

達成目標 5-3-4
先端大型研究施設戦略活用プログラムを発展的に見直し、対象となる先端研究施設を拡大し、産業利用 (共用) の拡大を推進する。(平成 19 年度概算要求予定)

達成目標 5-3-5
平成 18 年度以降については、平成 18 年 4 月に策定した「第 2 次国立大学等施設緊急整備 5 か年計画」に基づき、老朽施設の再生を最優先課題とし、併せて新たな教育研究ニーズによる施設の狭隘化の解消を図り、人材養成機能を重視した基盤的施設及び卓越した研究拠点等の再生を図る。

⑥指標	指標名	13	14	15	16	17
	微生物数 (国立大学、独立行政法人等の研究機関において保存されている微生物数) (2010 年の目標は 60 万) (達成目標 5-3-1 関係)	20 万 (0%)	25 万 (12.5%)	29 万 (22.5%)	29 万 (22.5%)	45 万 (62.5%)
	動物細胞数 (国立大学、独立行政法人等の研究機関において保存されている動物細胞数) (2010 年の目標は 3 万) (達成目標 5-3-1 関係)	約 4 千 (0%)	約 8 千 (15.4%)	約 2 万 (61.5%)	約 34,600 (117.7%)	約 48,400 (170.8%)
	動物 (マウス系統) 数 (国立大学、独立行政法人等の研究機関において保存されている動物 (マウス系統) 数) (2010 年の目標は 4,000) (達成目標 5-3-1 関係)	約 1,700 (0%)	約 2,200 (21.7%)	約 2,600 (39.1%)	約 3,050 (58.7%)	約 3,280 (68.7%)
	作物遺伝資源数 (国立大学、独立行政法人等の研究機関において保存されている作物遺伝資源数) (2010 年の目標は 60 万) (達成目標 5-3-1 関係)	約 22 万 (0%)	約 34 万 (31.6%)	約 34 万 (31.6%)	約 34 万 7 千 (33.4%)	約 40 万 4 千 (48.4%)
	シロイヌナズナ数 (国立大学、独立行政法人等の研究機関において保存されているシロイヌナズナ数) (2010 年の目標は 9 万) (達成目標 5-3-1 関係)	約 4 万 6 千 (0%)	約 7 万 2 千 (59.1%)	約 7 万 4 千 (63.6%)	約 9 万 9 千 (120.5%)	約 15 万 8 千 (254.5%)
	計量標準・標準物質 (2010 年の目標はそれぞれ 250 種) (上段は計量標準、下段は標準物質) (達成目標 5-3-1 関係)	82 種 (0%) 76 種 (0%)	136 種 (32.1%) 119 種 (24.7%)	152 種 (41.7%) 150 種 (42.5%)	179 種 (57.7%) 184 種 (62.1%)	196 種 (67.9%) 196 種 (69.0%)
	ライフサイエンス分野の計測方法・機器 (2010 年の目標は、国内企業の国内市場のシェアを 50%以上に) (達成目標 5-3-1 関係)	42.6 %	41.9 %	42.1 %	41.7 %	—
	ゲノム配列等のデータベース (DDBJ に 1 年間に登録された塩基配列データ数) (2010 年の目標は 6,000Mbps) (達成目標 5-3-1 関係)	600 Mbps (10.0%)	940 Mbps (15.7%)	1,020 Mbps (17.0%)	1,040 Mbps (17.3%)	1777 Mbps (29.6%)
	タンパク質構造の解析データに関するデータベースのデータ数 (タンパク 3000 プロジェクトによる PDB 登録数) (タンパク 3000 プロジェクト (H14~H18) の目標は 3,000 種以上) ※ (参考) 【 】内の数字はタンパク質の構造解析数 (達成目標 5-3-1 関係)	—	269 (9.0%) 【360】	917 (30.5%) 【1,192】	1,632 (54.4%) 【2,190】	2,491 (83.0%) 【3,268】
	材料物性データベースのデータ数 (2010 年の目標は、180 万データ) (達成目標 5-3-1 関係)	60 万 (0%)	80 万 (16.7%)	98 万 (31.7%)	115 万 (45.8%)	130 万 (58.3%)
	大型放射光施設 (SPring-8) の利用者数 (上段) 及び産業利用率 (下段) (達成目標 5-3-2 関係)	7,992 6.7%	9,112 6.8%	9,336 12.1%	8,501 15.2%	12,511 22.2 %
	スーパー SINET のノード数 (接続拠点) (達成目標 5-3-3 関係)	11	23	28	30	33
	大型放射光施設 (SPring-8) の産業利用率				15.2%	22.2% (146%)
	地球シミュレータの産業利用率 (達成目標 5-3-4 関係)				8.3%	19.4% (234%)
	国立大学等施設緊急整備 5 か年計画の達成状況 (万 m ²)	196	271	329	400	421

	※数値は累積値 (整備目標: 5か年で 597 万㎡) (達成目標 5-3-5 関連)		(32.8%)	(45.4%)	(55.1%)	(67.0%)	(70.5%)
	大学院施設の狭隘解消等 (整備目標: 5か年で 122 万㎡)		63 (51.8%)	78 (64.0%)	106 (87.2%)	115 (94.3%)	121 (99.6%)
	卓越した研究拠点等 (整備目標: 5か年で 37 万㎡)		17 (46.6%)	25 (67.3%)	31 (84.0%)	32 (87.6%)	34 (91.2%)
	先端医療に対応した大学附属病院 (整備目標: 5か年で 50 万㎡)		18 (36.8%)	28 (55.6%)	37 (73.4%)	46 (91.5%)	57 (113.0%)
	老朽化した施設の改善 (整備目標: 5か年で 388 万㎡)		98 (25.2%)	140 (36.2%)	155 (40.0%)	207 (53.3%)	209 (53.8%)
⑦評価に用いたデータ・資料・外部評価等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 指標 5-3-1 関係のデータについては、知的基盤整備計画(答申)のフォローアップと見直し(平成17年9月)の結果を活用。 指標 5-3-1 関係の整備数には、⑧主な政策手段に記載されたプロジェクトの他に、他府省のプロジェクトにより整備されたものも含まれる。 ライフサイエンス分野の計測方法・機器のデータは、「科学機器年鑑(株式会社アールアンドディ)」を活用。 達成目標 5-3-2 に関しては平成13年度からのスーパー SINET のノード(接続拠点)数の累計を明記。 						
⑧主な政策手段 (過去に新規・拡充事業評価を実施し、平成18年度に達成年度が到来する事業については総括)	政策手段の名称 (上位達成目標 [17年度予算額])	政策手段の概要	17年度の実績 (得られた効果、効率性、有効性等)				
	ナショナルバイオリソースプロジェクト (達成目標 5-3-1) [3,685 百万円]	実験動植物(マウス等)や、各種細胞、各種生物の遺伝子材料等のバイオリソースのうち、国として戦略的に整備する必要があるものについて体系的に収集、開発、保存し、提供するための体制を整備する	プロジェクト実施機関における体制の整備も進み、生物遺伝資源の収集は着実に実施されている。例えば、平成17年度には、マウスが1,668系統→2,075系統、シロイヌナズナ/植物細胞・植物遺伝子が264,662系統→366,153系統と着実に保存系統数を増やしており、順調に進捗。				
	タンパク 3000 プロジェクト (達成目標 5-3-1) [9,771 百万円]	タンパク質の全基本構造の1/3に相当する約3000種以上の基本構造及びその機能の解析を行う	平成17年度末現在、構造解析数は3268個(うちタンパク質の公的なデータベースであるPDBへの登録数は2491個)にのぼっており、順調に進捗。				
	独立行政法人科学技術振興機構によるバイオインフォマティクス研究の推進に関する事業 (達成目標 5-3-1) [1,859 百万円]	膨大なゲノム情報等の解析の格段の効率化・省力化利用の高度化等を実現するため、革新的なゲノム解析ツールの研究開発等、バイオインフォマティクス研究を推進する	革新的なゲノム解析ツールとして、ゲノム情報から高次生命システムの機能情報を解読する推論システムや生物の形態情報の解析ツールなど研究開発し、バイオインフォマティクス研究を推進した。				
	NIMS 物質・材料データベースの整備 (達成目標 5-3-1) [-]	研究基盤としての材料開発、材料選択、材料の最適な使用に活用できる物質・材料データベースを構築	平成17年度の整備状況としては、高分子のデータとして、ポリマーが約10,800件→約15,000件、物性ポイントが約114,500件→約150,500件と着実に整備を進めている。また、データベースの登録者数が、14,734人(平成16年9月)→20,800人(平成18年3月)と着実に増加している。				
	先端計測分析技術・機器開発事業 (達成目標 5-3-1) [4,000 百万円]	最先端の研究ニーズに応えるため、将来の創造的・独創的な研究開発に資する先端計測分析技術・機器及びその周辺システムの開発を推進する	ライフサイエンス関連の課題を平成16年度に14課題(全体で29課題)、平成17年度に9課題(全体で18課題)採択した。これらの課題はいずれも順調に進捗しており、開発された機器のプロトタイプが平成20年度頃から利用に供される予定であることから、計測機器の国内シェア向上に寄与するものと考えられる。				
	大型放射光施設(SPring-8)の共用の促進 (達成目標 5-3-2) [10,782 百万円]	利用支援コーディネーターの増員、戦略活用プログラムの開始、放射光による施設の経年劣化対策に係る経費を措置	平成17年度は前年度の台風被害の影響もあり、前年度と比して利用者数が40%以上も増加している。また、戦略活用プログラム等の実施により産業利用の実施課題数も伸びている。				
	スーパー SINET を整備 (達成目標 5-3-3) [運営費交付金]	国立情報学研究所において、先端的研究機関を最速10Gbpsの回線で接続する世界最速級の研究ネットワークであるスーパー SINET を整備す	外部有識者を含めた「学術情報ネットワーク運営・連携本部」において、利用者の要望・意見に基づき、スーパー SINET のノード(接続拠点)を3機関増やして、合				

6,865 百万円の内数]	る。	計 3 3 機関とした。
先端大型研究施設戦略活用プログラム (達成目標 5-3-4) [1,300 百万円]	最先端の大型研究施設を最大限に活かす利用の促進(産業界を含めた新規利用者の拡大)を図る。	平成 17 年度より本事業を開始し、産業界の課題を SPring-8 では 113 課題(全体で 134 課題)、地球シミュレーターでは 5 課題(全て産業界)を選定、実施し、産業利用を強力に推進したことから、産業利用率の大幅な向上を図ることができ、達成目標の実現に大きく寄与した。
国立学校施設整備事業 (達成目標 5-3-5) [施設整備費：90,070 百万円の内数]	「国立大学等施設緊急整備 5 か年計画」に基づき、毎年度の整備方針を決定し、重点的・計画的整備を図る。 ※平成 17 年度事業評価(新規・拡充事業)実施対象	得られた効果：5 か年計画に基づき、「老朽化した施設の改善」について、重点的・計画的整備が図られた。 大学院施設の狭隘解消等 : 約 6 万㎡ 卓越した研究拠点 : 約 1 万㎡ 先端医療に対応した大学附属病院 : 約 11 万㎡ 老朽化した施設の改善等 : 約 2 万㎡ 効率性：「公共工事コスト縮減対策に関する新行動指針」、「同新行動計画」及び「公共事業コスト構造改革プログラム」に基づき、積極的にコスト縮減(H17: 2.1%の縮減)を図り、必要最小限の経費で多くの事業を実施している。 有効性：事業の選定に際し、必要性・緊急性や教育研究の活性化状況などについて、有識者による客観的で公平性のある評価を行い、事業の有効性を判断している。 【事業期間全体の総括】 全体計画の約 71%の整備を実施し、一部目標を下回ったが、5 か年計画で優先的目標とした整備対象については想定どおり達成されており、大学等の教育研究基盤の整備・充実が一定程度推進された。
PFI 事業の実施 (達成目標 5-3-5) [施設整備費：90,070 百万円の内数]	施設整備に PFI 手法を導入	得られた効果：PFI 等の新たな整備手法による整備が図られた。(1 事業、約 1 万㎡) 効率性：事前の準備調査により一定の効果を見極め事業を採択するため、効果の高い施設整備が実現 有効性：事業の選定に際し、必要性・緊急性や教育研究の活性化状況などについて、有識者による客観的で公平性のある評価を行い、事業の有効性を判断している。 【事業期間全体の総括】 国の PFI 事業の約半数を実施するなど PFI の活用が推進された。(25 事業、約 42 万㎡)
⑨備考	知的基盤整備(①研究用材料、②計量標準、③計測方法・機器等、④データベース)関連の目標は、関係各府省庁が連携して達成すべきものである。文部科学省においても、知的基盤整備(特に、①研究用材料、③計測方法・機器、④データベース)を進めていくべきものである。	
⑩政策評価担当部局の所見	※5-3-2、5-3-4について、当初の想定計画と達成度合いの判断基準との関係をより明確にすることを検討すべき。	

施策目標5-3(科学技術振興のための基盤の整備) 平成17年度実績評価の結果の概要

